

## 地域人材ネット

### 大学生(若者)との連携による 地域力の共創と次世代の担い手づくり

片木 孝治 ( かたぎ こうじ )

株式会社 応用芸術研究所 代表取締役 所長



#### ○ 登録者情報

所在地

福井県鯖江市 京都府京都市

## 略歴

1970年京都市生まれ。京都精華大学芸術学部デザイン学科卒業(1993)。名古屋大学工学部建築学科研究生(1993～1995)を経て、シーラカンス&アソシエイツ東京一級建築士事務所(1995～2000)に勤務。帰郷後、京都市にて、建築デザイン事務所を設立:主宰(2000～)。京都精華大学デザイン学部建築学科 講師(2002～)を経て、特任准教授(2007～2012)に就任。同大学人文学部 非常勤講師(2012～2017)の傍ら、鯖江市にて、株式会社 応用芸術研究所を創設:代表取締役 所長(2009～)／総務省 地域力創造アドバイザー(2019～)を務める。

### 【主な事業歴】

京都市:びっくり!エコ100選事業(2004～2012)／鯖江市:河和田アートキャンプ事業(2005～)／京都市:エコ商店街事業(2007～)／京都市:鴨川アート展(2009～2012)／与謝野町:京都Xキャンプ与謝野事業(2012～)／南丹市:京都Xキャンプ美山事業(2013～)／坂井市:竹田Thinkキャンプ事業(2016～)／京都府:次世代下宿「京都ソリデール」事業(2016～)その他、民間活動も多数。

### 【主な役員歴】

京都府京都市「2R型エコタウン構築事業エコ商店街推進小委員会」委員(2007～)／越の郷地球環境会議 アドバイザー(2008～2012)／NPO法人京都カラスマ大学 副理事長(2009～2011)／NPO法人かわだ夢グリーン 理事(2010～2017)／NPO法人もやいなおしの会 顧問(2012～2014)／一般社団法人北陸古民家再生機構 理事(2011～)／福井県鯖江市「第5次総合計画審議会部会委員会」副部会長(2010)／京都府建設交通部「地域主導型公共事業委員会」委員(2012～2016)、同座長(2017)／京都府農林水産部「次世代型農業経営者育成アクションプラン策定委員会」委員(2012～2014)／福井県鯖江市「うるしの里元気再生プロジェクト策定委員会」アドバイザー(2013)／京都府与謝野町「海の京都・与謝野町実践者会議」委員(2014)／京都府京田辺市「全国大学まちづくり政策フォーラムin京田辺」審査員(2014～2017)、同審査委員長(2018～)などを歴任。

### 【主な受賞歴】

2007年度 (学)京都精華大学／学長賞 (河和田アートキャンプ)  
2009年度 総務省／地域づくり総務大臣表彰 団体表彰 (河和田アートキャンプ)  
2011年度 鯖江市／自治功労賞 (河和田アートキャンプ)  
2014年度 (財)日本産業デザイン振興会／グッドデザイン賞 (河和田アートキャンプ)  
2015年度 (社)共同通信社／第6回 地域再生大賞 北陸東海ブロック賞 (河和田アートキャンプ)  
2016年度 (株)コニカミノルタ／ソーシャルデザインアワード 審査員特別賞 (京都X キャンプ美山:おじゃま工房)  
2016年度 (株)福井放送／第5回かがやき基金 かがやき賞 (河和田アートキャンプ)

## ○ 大学生(若者)との連携による地域力の共創と次世代の担い手づくり

### 取組の内容

日本では高齢化を伴う人口減少がはじまって10年が経ち、縮小化社会、超高齢社会、地場産業の減衰などの課題が本格的に顕在化しはじめています。更に様々な分野で加速化する社会問題と向き合わなければならない今後において、未来を支える若者との関係づくりが重要なキーワードとなる時代となってきました。2005年から継続活動をしている有志大学生たちと産官民の連携による「地域キャンプ活動:河和田アートキャンプ(福井県鯖江市:2005～)／京都Xキャンプ(京都府与謝野町:2012～+南丹市:2013～)／竹田Thinkキャンプ(福井県坂井市:2016～)」をはじめ、高齢者と大学生による異世代ホームシェア「次世代下宿:京都ソリデール(京都府:2016～)」など、事業のスタートアップを大学生(若者)との連携・協働に特化した活動に絞り込むことで、学生時代からの関係づくりにより、社会人になってからも地域や事業と関係を保持する事ができる持続可能なプログラムを実践してきました。



## 実績

### 【鯖江市：河和田アートキャンプ事業（2005～）】

福井豪雨（2004年）の災害ボランティアをきっかけに、2005年より始まった河和田アートキャンプは、今年（2019年度開催決定）で15年目を迎えます。これまでの継続活動が以下の数値的な実績を生みつつ、地方創生、地域再生の要になる要素を多く含んでおります。また、その効果は、直接的な「事業の実績」に加えて、大学生たちが産官民の連携により実現することができた社会実験活動を通して得られた、知見や経験値を活かした間接的な「波及の成果」の2つ観点で認知されています。

まずは「河和田アートキャンプ事業」の直接的な活動としての数値的な実績として、以下があります。

- ①参加学生の所属大学履歴・・・14年間（2005～2018）の累計  
・全国から50大学（国立・公立・私立の理系、文系、芸術系と多分野に及ぶ）となります。
- ②参加学生の人数・・・14年間（2005～2018）の累計  
・実質人数は897名となります。年度毎の累計参加者数は約1600人となり、年平均で約100名以上の参加学生で実施されています。また、大学1年生からの参加となり、平均2年以上の参加があり、4年間（院生含む）の連続参加学生も多い年代で15名程おります。
- ③参加大学生の活動参加日数履歴・・・この活動は、現地での活動と大学のある都市圏での活動の2拠点活動となります。  
・現地活動：鯖江市河和田地区での滞在活動日数は、月1回毎の週末訪問（約20日間）に加えて、夏季休暇（約40日間）、春季休暇（約10日間）となり、通年で約70日間。また、年間の累積現地滞在人数は約3500人日となります。  
・都市圏活動：京都市内での準備活動（会議など）として、週に2～3日の放課後活動が、通年で約90日間となります。  
・現地＋都市圏活動：学生たちが事業活動に関わる単年度の合計日数は約160日間／年となります。
- ④参加大学生の鯖江市への移住者人数・・・14年間（2005～2018）の累計  
・23名（2018年現在で、UIターンを含む、新卒就業、転職就業、結婚等）となります。
- ⑤河和田アートキャンプ事業内で実施するプロジェクト数・・・14年間（2005～2018）の累計  
・約280のプロジェクトが実践されました。単年度平均で、毎年約20プロジェクトの視点で地域と向き合います。

次に、事業の実績から紐解かれた様々な地方創生のキーワードや、河和田アートキャンプが指針としてきた事業コンセプトと、大学生たちが育んだ地域住人との関係づくり（よそ者の受け入れ体質）が基盤となり、学生たちが企画・実施したプロジェクトから知見と経験値を得て、行政や地元NPO法人等により、次に示すさまざまな事業が展開されています。

#### ①学生（未来人材）プロジェクトによる地域資源の発見と人材育成という視点。

地域の未来について「外部から企業や社会人を召喚する」という手法ではなく「人材を1から地域で育成する」という手法により「若者が活躍できる場づくり」という視点を創出することができました。

##### \* 展開事業

- ・事例01：鯖江市地域活性化プランコンテスト（2008～）：地域内外学生による政策提言 <https://sabae-plancontest.jp/>
- ・事例02：鯖江市JK課（2014～）：地元高校生によるまちづくり事業 <http://sabae-jk.jp>

#### ②学生主体の活動と、長期滞在という視点。

長期滞在という形で学生の自由な発想活動を受け入れてきた結果、参加学生は地域住民と深い関わりを持つことが可能となり、地域住民はよそ者との摩擦が軽減されました。その経験値から、移住者をいきなり受け入れるのではなく、長期滞在しながら自由に地域との関わりを構築することで、地元から疎外されない「ゆるやかな移住者の居場所づくり」という視点を創出することができました。

##### \* 展開事業

- ・事例03：鯖江市体験移住事業「ゆるい移住」（2015～）：目的やスタイルを限定しない体験移住 <http://sabae-iju.jp/>

#### ③20年の計画で関係人口をつくる～新しい縁の創出という視点。

14年間の継続による地道な若者世代との関係づくりを基盤に、初期のキャンプ参加OBOG（移住者含む）が、30代の社会人として、地域や地域資源と向き合う立場になり「若者と地元住民が仕事を介して共創できる場づくり」という土壌ができました。

##### \* 展開事業

- 事例04：RENEW（2015～）：地場産業と移住組OBOGが主体となり、地域住民と生み出した「未来をつくる体験型マーケット」 <http://renew-fukui.com/>
- 事例05：（社）PARK（2014～）：OBOGと新たな移住者がつくったモノづくり交流の場 <http://parksabae.com/>

以上、地域の未来づくりを若者との連携から導くことで、新たな地域の担い手づくりと、地場産業の再振興への手がかりを創出しています。

## 工夫した点や苦勞した点

長期構想として、世代を紡ぐ事を目標に「20年の計画」を掲げてきましたが、新しい縁を創出するといった関係づくりが実績化するまでには時間が掛ります。行政と市民、参加学生が活動意義を確認し合いながら「細く長く持続する」という目標を見失わないための調整が大切でした。また、SNSやマスメディアを介した情報拡散による認知度向上の一方で、情報消費による一過性に陥らない情報戦略も重要な要素です。

## ひとことPR

「地域の未来＝日本の未来」といえます。その未来は、次世代を担う若者が背負っています。今、若者が何を見て、若者自身が未来をどのように築きたいと考えているのか……。若者の声は小さく聞こえるかも知れませんが、その未来（＝若者）からのささやきに耳を傾け、地域の未来づくりに活かす時代だと思います。



## ○ 参考

### 取組の分類

地域人材ネットでは、登録者の取組を11の政策分野に分類しています（複数の分野に該当するものもあります）。

	1	地域経営改革		7	まちなか再生
○	2	地場産品発掘・ブランド化		8	若者自立支援
	3	少子化対策		9	安心・安全なまちづくり
	4	企業立地促進		10	環境保全
	5	定住促進	○	11	その他(若者との関係人口構築支援)
	6	観光振興・交流			

### 関連ホームページ

株式会社応用芸術研究所	<a href="http://aai-b.jp/info/eco_ss.html">http://aai-b.jp/info/eco_ss.html</a>
河和田アートキャンプ	<a href="https://fbvg.jp/projects/kawada-art-camp">https://fbvg.jp/projects/kawada-art-camp</a>
鯖江育職住プロジェクト	<a href="http://sabae-job.jp/">http://sabae-job.jp/</a>
竹田Tキャンプ	<a href="https://readyfor.jp/projects/tcamp">https://readyfor.jp/projects/tcamp</a>

### 連絡先

メールアドレス	info[アットマーク]aai-b.jp	その他	
---------	----------------------	-----	--

※メールを送る際には[アットマーク]を「@」に変えてください。